

～せと市民総ぐるみ防災訓練～

令和6年度瀬戸市総合防災訓練〇〇連区実施要綱（例）

1 訓練目的

「～せと市民総ぐるみ防災訓練～ 令和6年度瀬戸市総合防災訓練」として、南海トラフ地震の発生を想定した訓練を行う。〇〇連区では、「シェイクアウト訓練」、「安否確認訓練」、「避難行動要支援者の避難行動支援訓練」、「避難所開設・運営訓練」に取り組み、自助共助の充実を図ることを目的とする。

2 開催日時

令和6年11月17日（日）午前8時から10時30分まで

（※ 地域独自の訓練を実施する場合等、必要に応じて終了時間は調整してください。）

3 訓練場所

各家庭、一時集合場所（組集合場所）、〇〇小学校

4 訓練想定

南海トラフ地震が令和6年11月17日（日）午前8時に発生し、瀬戸市で震度6弱を観測したことを想定

5 主な被害想定

- (1) 建物の倒壊、交通事故等により市内の各地で要救助者やけが人が多数発生しており、住民の迅速な安否確認を要する。
- (2) 木造住宅密集地域において火災が発生し、一部の地域で避難が必要な状況となっている。
- (3) 河川が近くにある地域では一部で液状化が発生するなど、道路が使用できない場所がある。
- (4) 南海トラフ地震の発生に伴い、土砂災害が発生するおそれが高まっている。

6 参加予定機関

- ・ 〇〇連区自治連合会
- ・ 〇〇小学校
- ・ 瀬戸市役所（地域防災支援員）
- ・ 瀬戸市消防本部（地域防災担当）
- ・ 瀬戸市消防団〇〇分団

7 訓練概要（記載された時刻は一例）

訓練項目	訓練対象	訓練内容
(1) 【午前8:00～】 おうち防災訓練	全住民	① シェイクアウト訓練 姿勢を低く、頭を守り、じっとする。 ② 二次災害の防止 ガスの元栓を締め、分電盤のブレーカーを切る。訓練では指差し確認のみ。 ③ 安否札の掲出 各家庭で安否を近所に知らせるため各連区等で整備した安否札を掲出する。 ※ 自治会役員、自主防災リーダー等は(2)安否確認訓練へ。それ以外の方は各家庭で引き続きおうち防災訓練を実施。(内容は基本方針参照。)
(2) 【午前8:20～】 安否確認訓練	自治会役員 ・ 自主防災リーダー 一等	① 組集合場所 安否札を活用し、被災状況を把握し組単位でとりまとめ、一時集合場所へ。(安否札未掲出世帯は、「声掛け安否確認(※)」を行う) ② 一時集合場所 各組集合場所で把握した情報を各町内単位でとりまとめ、避難所へ。 ★ 訓練評価指標集計用紙(様式1:組長用、様式2:町内会長用、様式3:自治会長用)を活用して集計してください。
(3) 【午前8:40～】 避難行動要支援者等の避難行動支援訓練	自治会役員 ・ 自主防災リーダー 一等	避難所まで自ら避難が困難な住民(避難行動要支援者及び負傷者等)の避難行動を、地域住民が支援する。(あらかじめ支援者と要支援者を決めておき、支援者は車両等を使用して要支援者の移送模擬訓練を行う。)
(4) 【午前9:00～】 避難所開設運営訓練	自治会役員 ・ 自主防災リーダー 一等 ・ 地域防災支援員	① 避難者の受け入れ 避難者同士が密にならないように、間隔を広くとって施設に避難させる。 ② 情報伝達訓練 各町内会から報告される安否確認結果を集計し、地域防災支援員に伝え、市災害対策本部へ報告する。 ③ 資機材の設置 各避難施設に配備されている間仕切り等の資機材を、感染症対策を考慮して設置する。

※ 声掛け安否確認について

- ① 「声掛け安否確認」の方法は、インターホンを1回鳴らす、玄関先で声をかけるなどにより実施し、反応がなければ終了(必ず対面する必要はない)。訓練時間も限られているため、無理のない範囲で実施する。
- ② 「声掛け安否確認」を実施することについて、組回覧等により住民への事前周知を行う。なお、町内会未加入者には事前周知が難しいため、実施対象は原則町内会加入者のみとする。

8 避難所における感染対策等について

手洗い等の手指衛生や換気は、感染症の特徴を踏まえた基本的感染対策として引き続き有効であるため、必要に応じて実施すること。

また、多様な避難を検討し、指定避難所への避難を必要とする方に絞った避難所運営を行うこと。

(多様な避難例)

・在宅避難 ・親戚、知人宅への避難 ・ホテル避難 ・指定避難所への避難

9 その他

- (1) 訓練当日、荒天その他の事由により訓練を中止することが適当と判断された場合、南海トラフ地震に関連する情報(臨時)、または、市内で震度3以上の地震が発生した場合は訓練を中止する。
- (2) 荒天等の理由により中止する場合は午前7時に決定する。なお、実施可能と判断された場合においても、気象状況により一部の訓練を中止することがある。

避難所レイアウト (例)

※このレイアウト図は、新型コロナウイルス対策用に作成した例です。

感染症の疑いがある避難者については、別室にスペースを設けるなどして対応することを原則とするが、訓練においては災害時における種々の制約を想定し、体育館の中でパーティションなどの資機材を活用したレイアウトとした。

